

平成30年度第1回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

平成30年6月27日（水） 午後1時30分～午後3時15分

2 会場

花巻市役所本庁舎3階 委員会室

3 出席者

(1) 委員 8名（16名のうち）

中村良則座長、高橋豊委員（新委員）、熱海淑子委員、菅野慎一委員（新委員）、
漆沢俊明委員、工藤純委員、鈴木朋友委員、岩淵満智子委員

(2) 市・事務局 6名

上田東一市長、市村律総合政策部長、菅野圭秘書政策課長、高橋誠同課長補佐、
赤坂秀樹同企画調整係長、佐藤伸昭同主査

4 会議内容

(1) 委嘱状交付

新委員2名に対し、市長から花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委嘱状
の交付。

(2) 開会

(3) 市長あいさつ

上田市長よりあいさつ。

(4) 座長あいさつ

中村座長よりあいさつ。

(5) 説明

○説明

（事務局）

配布資料により、花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況について説
明。

○質疑応答

(漆沢俊明委員)

教えていただきたい。まず一つは、今日配布のありました、出生数の資料についてですが、単純にその年に生まれたお子さんと女性の数を分子分母にして出した数字なので、合計特殊出生率と違う数字ということでしょうか。

(事務局 菅野課長)

あくまで、資料の数字は、出生数と女性人口を使った単純な数値ということで御理解いただければと思います。

(漆沢俊明委員)

地方創生関係交付金のスモールビジネス推進事業の中身について教えていただきたい。スモールビジネスリピーター数という考え方について。

(事務局 佐藤主査)

ただいま御質問いただきましたスモールビジネス推進事業のリピーター数についてですが、体験型観光を初めとしたいわゆるアクティビティー事業への総参加者数からリピーター数を算出いたしました。総参加者数とリピーター数はイコールではありません。総参加者数の4分の1をリピーター数として設定してございます。総参加者数は約5900人です。

(漆沢俊明委員)

観光コンテンツにおけるロケ実施件数の実績値は4件で、目標値は1件なので、評価は二重丸ではないでしょうか。

(事務局 赤坂係長)

その通りです。二重丸になります。

(中村良則座長)

後ほど修正した資料を送付いただけることでしょうか。

(事務局 菅野課長)

はい。

(熱海淑子委員)

資料3の掲載事業一覧で未実施となっている事業は31年度には実施するということがいいでしょうか。

(事務局 赤坂係長)

実施内容を検討しながら、必要に応じて予算措置していくこととなります。例えば関係機関で実施している事業と重複するようなことがないか検証しながら検討していきます。

(中村良則座長)

それでは、ほかの方で質問、意見等あればお願いします。

では、私から。資料4の地方創生関係交付金の評価において、ABCDという評価がされていますが、それぞれ、どんな評価をされているのでしょうか。

(事務局 佐藤主査)

資料4の地方創生関係交付金事業の実績に対するABCDの評価についてご質問をいただきました。まず、スモールa～cの評価がございます。これについてはKPIの判定区分としまして、目標に対して100%以上の実績があるものがスモールa、目標に対して90%以上100%未満の実績があるものがスモールb、目標値に対して90%未満の実績がある場合にスモールcというような評価になります。続いて大きいABCDについてですが、KPIの達成率がすべてaの場合、「達成できた」というレンジAの評価にあたります。レンジBは「おおむね達成できた」ということですが、こちらはKPIの達成率の半分以上がスモールaかスモールbで構成される場合に該当いたします。続きまして、レンジCは「やや達成できなかった」という評価になりますが、これにつきましては、KPIの達成率の半数未満がスモールaかスモールbという評価になります。最後にレンジD「達成できなかった」はKPIの達成率の全てがスモールcということになります。

(漆沢俊明委員)

わかりました。それから、資料4の地元企業等連携・最終製品創出事業は今年度事業実施がなく、事業の評価として、日用品の施策に係る補助事業を公募により実施したが、試作後の日用品の創出が可能な市内企業が限定的であることが判明し、本事業が企画した実施企業の増加が困難となったため中止したものであるという記載があります。これは最初から難しかったことが分かったということでしょうか。

(事務局 赤坂係長)

こちらの事業については、最初から事業者がいなかったということではなく、例えばスポンジであったりビニールケースであったり、日用品を開発して、試作してみたものの、全国展開するうえで、ロット数をそろえるのが難しいという判断があり、全国展開まで持っていけなかったということがありました。

(中村良則座長)

それでは、花巻市の取り組み状況、実施状況の説明を受けて、今後事業を進めていくうえで、どういった視点が必要なのかといったお話しを含めてご意見いただきたいと

思います。

(高橋豊委員)

初めて出席したため、わからない点もあります。6月は大変会議が多い時期となっており、資料を作った方も御苦労されたと思いますが、年2回くらいの会議を行うのであれば、もう少し資料を早めに作っていただければと思います。資料の中で一番気になるのは人口問題です。合計特殊出生率は1.8や2.1を目指すといっても、今現在1.4を切っている。もっと市民を巻き込んで深く考えていかなければならないと思います。商工会議所でもいろんな取り組みをしていくので、市と連携して取り組んでいきたいと思っております。

(中村良則座長)

商工会議所でも様々な取り組みがあると思います。資料4のサービス業生産生向上事業では、カイゼン導入事業所数の目標が10であるのに対して、実績値は2であるようですが、商工会議所でもこちらの事業の周知をしていたということでしょうか。

(高橋豊委員)

周知をおこなってきました。

(中村良則座長)

このあたり数値が伸びないのはどんなことが考えられるでしょうか。

(高橋豊委員)

なかなか原因の特定は難しいところです。

(漆沢俊明委員)

生産性向上に向けて、商工会議所でもセミナーや相談業務であったり、生産性向上の視点を含めたものづくり補助金であったりという取り組みがあります。さらに今年には、駅前インキュベーターで、f-Biz(エフビズ)に似たような相談業務をやろうという話があります。商工会議所と市と信用金庫で一緒になってやろうという動きもあります。よろず支援拠点等に対しても対応しているはずですが。

(中村良則座長)

ありがとうございます。補助事業についても、こうした現場企業さんの動きを見ながら、しっかり考えていただければと思います。

(事務局 市村部長)

先ほど高橋委員から人口減少と出生率の部分で、より深く考えることや施策が必要ではないかというお話がありました。移住定住の関係ですと、住宅取得の支援では、花

巻市の場合、県外から移住した子育て世帯が住宅取得した場合、市から最高 200 万円と県からの 20 万円を合わせて 220 万円を助成しています。これは非常に手厚い制度であり、かなり実績が上がってきました。平成 27 年度から取り組んできて 29 年度さらに拡充を行い、成果が上がってきています。冒頭、市長も御挨拶申し上げましたように、平成 30 年度からは、定住という部分で、現に市内に住んでいる子育て世帯が 4 地域の中心地域や、自分の親と同じコミュニティーに近居同居という形で住宅を取得する場合には、奨励金として 30 万円を交付することになりました。人口減少が激しい花巻中央地区についてはさらに 20 万円を加算します。これらは災害公営住宅と隣接する地域優良賃貸住宅への子育て世帯の誘導と併せて定住促進のために取り組む施策であります。さらに、待機児童の解消に向けて、市で駅西のところに小規模な公立保育所を県内で初めて設置しました。それから法人立の小規模保育所の拡充についても、支援することで、子育てしやすい環境づくりということにも力を入れ始めました。これが直ちに今年度から効果が現れるということにはならないと思いますが、高橋委員さんから御指摘ありましたように、そういう新たな施策も展開しながら、さらにどういったところに力を入れることによって、子育て世帯には移住定住していただけるのか、将来の人口減に少しでも歯止めをかけられるのかという政策をこれからも考えてまいりたいと思います。ぜひご意見やアイデアにつきましては、本日でなくても、あとから気づいた点でも、我々にお寄せいただければと思います。御意見を交わしながら検討したいと思いますのでぜひよろしくお願いいたします。

(岩渕満智子委員)

この資料を見たときに、出生率や女性人口の流失について記載があります。また、花巻市は、これまでにないほど子育て支援に力を入れているように感じますし、先日は盛岡で会議があった時に、花巻市はすごいですねというお声もいただきました。それだけ力を入れているのはいいことですし、うれしいことです。ただワークライフバランスを考えたときに、企業の力も非常に大きいのではないかな、企業の協力がなければうまく行かないだろうなと思います。そのあたり、企業にも働きかけて、進めていただければいいなというふうに思います。

(事務局 市村部長)

ありがとうございます。ワークライフバランスの関係では昨年度の商工会議所さんに御協力いただいて、会報と一緒にチラシを配布し、ワークライフバランスをテーマにした出前講座等について紹介してきました。労働力を確保するのが大変な時代にあつて、企業としても人材を確保するために、ワークライフバランス、働きやすい環境づくりを行うことが、人材を確保するために必要だということは、それぞれの企業さんも考えていることだと思います。県の男女共同参画に関わる機関では、要請をいただければ出前講座を開くことができますので、市としても県の機関と協力し、そういう考え方をお持ちの企業を支援できるよう対応してまいりたいと考えてございます。

(漆沢俊明委員)

今の時期、東芝メモリを無視できないと思います。この計画を作る段階では、東芝メモリの動きはまだはっきりしていなかった部分があると思います。やはりあそこに人が集まってくるっていうのは、間違いのない中で、東芝メモリからの税収入は、花巻は直接受けられないのかもしれませんが、北上の工業団地で働く3分の1くらいが花巻から通勤していると聞きます。ということは、花巻にも東芝メモリの進出により、その3分の1が住んでいただける可能性があるということだろうと思います。ただ、将来的に東芝メモリが稼働し始めるとかなりの税収が市に入るといふふうに聞きます。今日は、観光協会長の佐々木さんがいらっしゃっていませんが、佐々木さんが桑名の商工会議所の会頭さんから伺った話ですと、税収で大体84億円が四日市工場から市に入っている。その分、一般市民の税金を下げられるということでした。そこで北上市は人口流入がかなり進む可能性があつて、逆に花巻市としては格差が出てくる可能性があるのではないかと私は懸念しております。ただ、花巻に3分の1住んでもらえるという可能性があるとするれば、今ここでやはり何らかの対策をすべきではないかと思えます。今足りないのはホテルとか、アパート、タクシー、ガソリンスタンド、後は、飲食店も非常に重要だという話でした。例えば双葉町の飲食店のような所も非常に重要だと東芝メモリの方々もおっしゃっています。全体を見ますと、まさに「まち・ひと・しごと」ですね。ということからすれば、花巻市もいろいろと認識なされて対応もされていると思えますし、東芝メモリだけの話でもないとは思いますが、これは他の地域にはない動きです。その対策ということだと、具体的な話はなかなか難しいところですが、例えば我々が聞いたところであれば、不動産業者からアパートを建てたいという話があります。前から私が申し上げていることですが、花巻市は北上に比べて宅地が安い。ですが、農地が多くてなかなか宅地にできるところが少ないという話を聞きます。逆にそういう可能性を追求してもいいのではないかと思います。アパート1棟借り上げということも普通に行われていると聞きますので、ビジネスチャンスもありますし、住民をふやす手だても講じられる可能性があるのではないかなというふうに思います。そのためには、やはり北上市としっかり連携しながら、花巻市も、この計画にプラスアルファしていくべきではないかと思えます。

(事務局 市村部長)

漆沢委員さんからお話のあった東芝メモリの部分につきましては、我々も十分認識しているところです。北上市さんが工業に力を入れられてきて、今回の東芝メモリの話が進んでいるところですが、当然、それを見据えまして3月定例会で対応をお話ししてきました。議会からも質問があったのですが、まず、流通関係で申しますと、国道4号のいわゆるボトルネック、北上と花巻の間の約二、三キロが細くなっているのですが、物流のことを考えますと、やはりあそこを片道2車線化することによって、流れがよくなる場合がございます。そして、あともう一つは、スマートインターについて。やはり北上江釣子インターまで行くと距離があります。そういうことで、中間の花巻パーキングエリアであれば、アクセス道路もあるということで、検討を進めています。

国道 4 号の拡幅は、花巻だけでなく、北上市や奥州市、金ヶ崎町、民間団体も一緒になって要望してきました。スマートインターの関係についても、物流の関係とあとは中部病院への搬送関係でも効果があるということで、北上市長もいいという考えを持っておられるようですので、そういうところは、北上市と連携することによって実現できればと考えます。委員さんからお話があったとおり、住むところということでは、やはり花南地区が北上市と接するところになります。花南地区も十分通勤圏内にあると思います。ただ、市が直接やるということは難しいと思いますが、不動産業さん等からさまざま情報を得ながら。これは北上だけでなく、県南広域圏域としても働く場所が増えるということですので、花巻でも北上と隣接するところを宅地として、住宅を建てて住んでいただければ、花巻の人口減少に歯止めをかけるところにもつながると思いますので、その辺りのところは、御指摘のとおり、北上市と連携をとりながら、十分施策に反映してまいりたいというふうに考えているところです。

(漆沢俊明委員)

そのほかの点でいうと重要になるのは、公共交通機関だそうです。タクシーも必要ですが、タクシーだけでなく、空港からのバスも必ず必要になると聞きます。新幹線を使った場合は北上で降りてしまいますが、空港を利用した場合の公共交通機関をしっかり用意しなければいけないということになりそうです。ぜひその辺も意識した対応が必要になるのではないかなと思います。

(工藤純委員)

東芝メモリの話になるのですが、花巻市では、橋の工事により、1 本道路が閉鎖されている状況で交通渋滞がありますので、今後の定住を考えた場合にその道路の問題も考えていかなければならないのかなと思います。やっぱり通勤する上で、利便性とか快適性を考えれば、道路の見直しもしなければならぬかなと思っております。先ほど漆沢委員からも話がありましたけども、北上の工場団地に出る方も多いということなので、花巻市から通勤する人で渋滞することになると、北上から花巻に通勤する人は今度 4 号線に出てこれないという問題も出てきてしまいます。そのあたりも検討もお願いしたいなと思いますし、あと、4 号線のローソンのところから新しく橋をかけているところの道路が細くなっています、あの周辺は中学校とか小学校がありますので、繋がりというところで、ちょっと危ないなと思うところです。あともう一つは、岩渕委員からも話がありましたけども、ワークライフバランスについてです。旦那さんが早く帰ってきてくれればいいのですが、例えば花巻市であれば、今、大手企業の企業が少ないですね。ですので、IoT だとか、AI とかビッグデータといった技術がなかなか入りづらい地域だと思っています。経済産業省の人とお話する機会があって、お話を聞く、地方の中小企業のそうした技術進展のことを懸念しているということでした。IoT や AI、ビッグデータについて、花巻市のほうでも支援をして、少しでも、人材不足の部分をそういう面で改善していければ、早く帰れる人たちが増えるのではないかなと思っております。例えば北上市は、東芝メモリやジャパンセミコ

ンダクタなどの大手企業があるので、中央からそうした技術が入ってくるので心配はしていないということでした。そういう面でも、市による支援というのは新しいアプローチではないのかなというふうに思っております。

(事務局 菅野課長)

今、橋を架けているというのは、豊沢橋のことでしょうか。豊沢橋は今年の8月に供用開始になります。お話のように南城のほうに住宅が密集しているために、道路拡幅ができなかったという背景があります。真っすぐ行けば北工業団地に行き着くのですが。その関係もあって4号が西側に迂回した設計になっているのだと思います。

(岩淵満智子委員)

今のお話を聞いて思い出したのですが、子育て支援として中学生や高校生まで医療費助成をしていくなど、子育て支援に力を入れていって、大きくなって進学となったときに、東京など首都圏に就職されないように施策が必要なんだと思います。

(菅野慎一委員)

実はですね、昨日、岩手県の教育委員会教育長から、メッセージをいただきました。就職を考えている子供たちに、県内にも選択肢があるんだよということを伝えてほしいという内容の教員向けのメッセージが届いております。これは異例なことです。例えば隣の秋田県は学力が高いのですが、進学就職で多くが県外流失してしまいます。岩手県でも、喫緊の非常に大きな問題であると思って教育長が発言したものだと思います。花巻北高校は進学の割合が高いのですが、やはり実業高校の関係については、定住される可能性が強いわけですので、そういった部分で、花巻北上の魅力とか、あるいは、岩手の魅力とか、そういったものを行政と一緒に伝えていければいいのではないかと思います。もちろんその企業の努力もあると思いますが、教育長がこうしたメッセージを寄せているのは、7月1日からの求人開始にも関係しているのだと思います。ぜひ高校生に対しても、県内企業の魅力を発信してもらいたいなと思っております。

(事務局 市村部長)

今、課題として認識しているのは、花巻の場合、高校生で就職する方は8割ぐらいは県内に、5割ぐらいは市内には残っていただいている現状があり、ただ、先ほど岩淵委員がおっしゃるように、大学進学する子は増えてきていて、大学進学したけれども、就職先がこちらの方には無いということです。高校生については、働く場所が結構あるかなと思うのですが、いわゆる理工系大学に進学した子供たちの帰って来る場所、技術開発系の就職先がなかなかないというところ、そういう部分が課題としてあります。ただこの課題は、長期的に考えていけない部分ですし、花巻市だけでできることでもありません。そういうところが市としては認識している課題です。

(事務局 菅野課長)

参考ですけれども、岩手大学さんを中心に、知の拠点事業ということで、県内の大学も協力して、岩手県の企業の魅力を知ってもらうための取り組みをしています。ただ、岩手県ととらえてもまだ難しいのであれば、東北管内でもいいから就職してもらっていいというような考えを持っていて、東北での連携も視野に入れて取り組んでいるというようなことも聞いております。

(熱海淑子委員)

今の話につきましては、県といたしましても、大学に進学した人たちがどこに就職しているのが分からないという実態が課題であるととらえておまして、今年度 UI ターンクラブというのを設置して、首都圏の 20 数校と県が協定を結び、さまざまな情報提供をスムーズに行える制度、仕組みをつくりました。そういうところで Uターンを促進させるというところの取り組みを県としてもやり始めたところですので、これから少しずつ活発化してくれていけばいいかなと思っております。

(鈴木朋友委員)

昨日、志戸平温泉さんを会場に観光の DMO セミナーがありまして取材するため出席しました。私は、花巻は黙っていても観光客の方が来られる地域だろうと思っていたのですが、セミナーでは、日本の人口が減少続いている中で、国内の観光旅行客数、花巻の訪れる観光客が減っているという話でした。一方、インバウンド、台湾を中心に、海外のお客が増えているということでした。そうした中で花巻は宿泊に特化してしまっている状況があるということでした。せっかくお金をかけて宿泊されても、その周辺への波及効果が少ないというふうなことも課題に挙げていました。現状、いろいろ観光施策と掲げていらっしゃるんですけども、観光産業というのは、宿泊ホテルの担当の方々だけでなく、公共交通機関の方、出される料理に使われる食材をつくるの方々という形で、リンクしてくるところがあるなというふうに私も感じています。みんなで観光を盛り上げていこうというような仕組みづくりへの支援も、少し力点を置いていければいいのかなというふうに感じます。具体的にどうすればいいのかという難しいのですが、さまざまな方々とリンクし合いながら、花巻の観光を盛り上げていけるのかを考えることが必要なのだろうと感じました。

(中村良則座長)

花巻が宿泊に特化しているのは間違いのないことだと思います。その中でいかに滞在時間を増やしていけるかが大切であり、必要な施策なのだと思います。またそういう意味では、常々、漆沢委員からお話のある花巻としての物産を考えていくことというのも、そうした滞在時間を増やすために必要な取り組みの一つといえるのだと思います。このあたりは商工観光部門でも考えていただければと思います。

(中村良則座長)

それでは、まだまだご意見もあると思いますが、時間も予定している時間を過ぎたことから、ご意見は次で最後させていただきたいと思いますが、何かありますでしょうか。ないようですので、意見交換は以上で終わらせていただきたいと思います。大変ありがとうございました。事務局にお返しいたします。

(6) その他

特になし

(7) 閉会